

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 23 日現在

機関番号：10104

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2012

課題番号：20520313

研究課題名（和文） 『マハーバーラタ』と日本文学作品の比較文学的研究および日本神話研究への応用

研究課題名（英文） A Comparative Study of Mahabharata: for Further Comparative Studies with Japanese Classical Literature and Japanese Mythology

研究代表者

中村 史 (NAKAMURA FUMI)

小樽商科大学・商学部・教授

研究者番号：20271736

研究成果の概要（和文）：古代インドのサンスクリット大叙事詩『マハーバーラタ』の比較文学的研究、特に、日本古典文学に流れ込んだ『マハーバーラタ』説話の原典との比較研究、日本神話研究への『マハーバーラタ』神話研究の方法的応用の模索、そして、より規模の大きな比較研究をめざしての『マハーバーラタ』説話それ自体の研究を行なった。また、続行し暫時行なう予定である。

研究成果の概要（英文）：A comparative study of the Indian Sanskrit epic *Mahabharata*, consisting of three parts, has been carried on: 1) examination of its influences on some of the works of Japanese classical literature, 2) investigation of methodological application on study of Japanese myths, and 3) research into narratives from *Mahabharata* for success of the future larger comparative study of the epic.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：日本文学、インド文学、比較文学、説話文学

科研費の分科・細目：文学 各国文学・文学論

キーワード：マハーバーラタ、神話、説話、比較

## 1. 研究開始当初の背景

もと日本古典文学（特に説話文学）を学んだ申請者が、インド学・インド哲学・仏教学の言語（サンスクリット、パーリ語）とインド学・インド哲学・仏教学の研究成果を学びつつ、インド・サンスクリット説話との新たな比較文学研究の一面を開こうと考えた。

## 2. 研究の目的

古代インド文学の宝庫であり、カタログ的

存在であるサンスクリット叙事詩『マハーバーラタ』から日本古典文学に流れ込んだ作品群・説話群が存在する。それらを『マハーバーラタ』の原典説話や関係の説話と比較することにより、それらの原型と展開、思想的・文学的系譜、日本の変容や特徴を明らかにすることである。

また、『マハーバーラタ』神話研究の方法を日本神話研究の方法に応用することのできる事例を発見し、研究することである。

### 3. 研究の方法

日本文学に流れ込んだ『マハーバーラタ』説話を中心とするインド古代文学を再検討する。また、インド神話研究の方法を日本神話の比較神話学的方法へ応用する。そして、将来的により規模の大きな比較研究へと展開することを考えて、『マハーバーラタ』説話そのものの研究をも平行して行なう。

### 4. 研究成果

研究成果としては、下記の(1)、(2)に分けて報告することができる。

(1) 来たる 2014 年度 11 月末を期限として、今回の科学研究費補助金の期間、及びその準備期間であった前年 1 年分の研究成果、『マハーバーラタ』の研究を博士論文としてまとめ、提出する予定である（諸般の事情により遅れていた）。今回の科学研究費補助金による研究成果はその中に含まれている（特に第 12 章を中心として）。

この博士論文は、『マハーバーラタ』の説話数話の比較文学的研究である。その研究の主たるものは、今回の科学研究費補助金を受けた 5 年分とその前年 1 年分の論文の改稿、及び、総論、及び、追加の 2～3 章から成る予定である。仮の目次によって内容の概要を示せば、次の通りである。

#### 序章

**第 1 章** 『マハーバーラタ』第 13 巻第 1 章の説話「蛇に噛まれて死んだ子どもをめぐる対話」の考察

**第 2 章** 『マハーバーラタ』第 13 巻第 1 章の説話「蛇に噛まれて死んだ子どもをめぐる対話」の思想的考察—運命と行為—

**第 3 章** 『マハーバーラタ』第 13 巻第 5 章の説話「鸚鵡とインドラの対話」の考察

**第 4 章** 『マハーバーラタ』第 13 巻第 50 章・第 51 章の説話「チャヴァナ仙と魚たち」の考察

**第 5 章** 『マハーバーラタ』第 13 巻第 93 章と第 94 章の説話「七仙人の名乗りと真実の誓い」の考察

**第 6 章** 『マハーバーラタ』第 13 巻第 102 章の説話「ガウタマ仙とインドラの対話」の考察

**第 7 章** 「蛇に噛まれて死んだ子どもをめぐる対話」: 『マハーバーラタ』第 13 巻第 1 章の説話・和訳研究

**第 8 章** 「鸚鵡とインドラの対話」: 『マハーバーラタ』第 13 巻第 5 章の説話・和訳研究

**第 9 章** 「チャヴァナ仙と魚たち」: 『マハーバーラタ』第 13 巻第 50 章と第 51 章の説話・和訳研究

**第 10 章** 「七仙人の名乗りと真実の誓い」: 『マハーバーラタ』第 13 巻第 93 章と第 94 章の説話・和訳研究

**第 11 章** 「ガウタマ仙とインドラの対話」: 『マハーバーラタ』第 13 巻第 102 章の説話・和訳研究

**第 12 章** 日本古典文学に流れ込んだ『マハーバーラタ』説話の比較研究

#### 終章

この博士論文、『マハーバーラタ』の比較文学的研究を、今回の科学研究費補助金の研究課題の成果報告を兼ねて作成する。

(2) 上記(1)の博士論文に加えて、現在準備中であり、近い将来の研究発表・論文公刊を進めている研究がある。日本の『古事記』『日本書紀』に収められている「海幸・山幸神話」についての『マハーバーラタ』神話研究からの応用研究である。『マハーバーラタ』の「善玉」主人公たち（＝パーンダヴァ）と「悪玉」たち（＝カウラヴァ）とは本来善悪の立場が逆であった、とされる。もともと「悪玉」側の伝承であった戦いの物語が、彼らが敗者になることによって、勝者の「善玉」主人公側に奪取され、その結果、善悪の立場が転倒し、正義・不正義のすり替えがなされ、結果として様々な不整合が生じている、という

見方である。これとよく似た現象は、例えば、日本の「海幸・山幸神話」にも起こっていることが推論される。本来「海幸」側（＝日向隼人族）の物語であった神話伝承が、彼らの敗北・服属によって「山幸」側（＝大和朝廷）のものとなり、勝者に善玉・主人公役を奪われ、悪玉役を押し付けられる・・・といったことである（このような現象はおそらく世界中の神話・説話・叙事詩に存在していると推測される）。

・・・・・・・・・・・・・・・・

今回の科学研究費補助金による研究は『マハーバーラタ』そのものの神話・説話の研究と同時に並行して行なった。今後は『マハーバーラタ』そのものの神話・説話の研究（比較研究）を主体として行なう方向へと転じてゆく予定である。そうすることによって、より規模の大きな叙事詩『マハーバーラタ』の比較研究となつてゆくことをめざしている。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 10 件）

- ① 中村史 「チャヴァナ仙と魚たち：『マハーバーラタ』第 13 巻第 50 章と第 51 章・和訳研究」（『小樽商科大学人文研究』、査読無、第 124 輯、平成 24 年 12 月、103～124 頁、<http://hdl.handle.net/10252/5043>）
- ② 中村史 「蛇に噛まれて死んだ子供をめぐる対話」：『マハーバーラタ』第 13 巻第 1 章・和訳研究」（『小樽商科大学人文研究』第 123 輯、平成 24 年 3 月、141～168 頁、<http://hdl.handle.net/10252/4818>）
- ③ 中村史 「『マハーバーラタ』第 13 巻第 1 章の考察—運命と行為—」（『印度学仏教学研究』、査読有、第 59 号第 2 号、平成 23 年 3 月、822～828 頁、<http://hdl.handle.net/10252/4963>）
- ④ 中村史 「『マハーバーラタ』第 13 巻「蛇に噛まれて死んだ子どもをめぐる対話」の考察」（『印度哲学仏教学』、査読有、第 25 号、平成 22 年 10 月、332～343 頁、<http://barrel.ih.otaru-uc.ac.jp/researcher?action=viewResearcherPage&researcherId=36>）
- ⑤ 中村史 「『マハーバーラタ』第 13 巻第 50 章「チャヴァナ仙と魚たち」の考察」（『印度哲学仏教学』、査読有、第 24 号、平成 21

年 10 月、326～335 頁、<http://barrel.ih.otaru-uc.ac.jp/researcher?action=viewResearcherPage&researcherId=36>）

- ⑥ 中村史 「パリー語『ジャータカ』の動物活躍譚：現在物語・過去物語を往来する人類・異類の生存の交流」（『日本文学』、依頼論文、第 58 巻第 6 号、2009 年 6 月、20～28 頁、<http://hdl.handle.net/10252/4965>）
  - ⑦ 中村史 「ガウタマ仙とインドラの対話：『マハーバーラタ』第 13 巻第 102 章の説話・和訳研究」（『小樽商科大学人文研究』、査読無、第 117 集、2009 年 3 月、15～38 頁、<http://hdl.handle.net/10252/2320>）
  - ⑧ 中村史 「『マハーバーラタ』第 13 巻第 102 章の説話—「ガウタマ仙とインドラの対話」の考察—」（『印度哲学仏教学』、査読有、第 23 号、平成 20 年 10 月、333～343 頁、<http://barrel.ih.otaru-uc.ac.jp/researcher?action=viewResearcherPage&researcherId=36>）
  - ⑨ 中村史 「鸚鵡とインドラの対話：『マハーバーラタ』第 13 巻第 5 章の説話・和訳研究」（『小樽商科大学人文研究』、査読無、第 115 輯、2008 年 3 月、195～209 頁、[hdl.handle.net/10252/379](http://hdl.handle.net/10252/379)）
  - ⑩ 中村史 「『マハーバーラタ』第 13 巻「鸚鵡とインドラの対話」の考察」（『印度哲学仏教学』、査読有、第 22 号、平成 19 年 10 月、288～298 頁、<http://barrel.ih.otaru-uc.ac.jp/researcher?action=viewResearcherPage&researcherId=36>）
- 〔学会発表〕（計 3 件）
- ① 中村史、「『マハーバーラタ』第 13 巻の説話の考察」、日本印度学仏教学会・第 61 回学術大会、2010 年 9 月 11 日、立正大学
  - ② 中村史、「『マハーバーラタ』第 13 巻の説話研究—第 50 章「チャヴァナ仙と魚たち」—」、北海道印度哲学仏教学会・第 25 回学術大会、平成 21 年 8 月 29 日、北海道大学
  - ③ 中村史、「『マハーバーラタ』第 13 巻第 102 章の説話「ガウタマ仙とインドラの対話—良い行為をした者の行き先は—」、北海道印度哲学仏教学会・第 24 回学術大会、平成 20 年 8 月 30 日、北海学園大学

〔その他〕

ホームページ等

<http://barrel.ih.otaru-uc.ac.jp/researcher?action=viewResearcherPage&researcherId=36>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

中村 史 (NAKAMURA FUMI)

小樽商科大学・商学部・教授

研究者番号：20271736